

2010年度の活動をはじめるとにあたって

参加者の声
何を大切に進めていきたい？

自分の気持ちだけで走らず、
地域や近所とともに
取り組んでいけたら

道志の良いところを
若者に伝えたい

お互いに信頼していけるか

人と人の繋がり

心を豊かに

回りの人たちの
意見や反響を大切に
進めていきたい

一緒に行動してくれる人を集めたい

昨年度から話し合ってきたことが
実現できると思うと楽しみ

自分たちで
村づくり
をしよう！

2009年度
村民の暮らしの課題を
多世代で出し合い
整理しました

将来に向けて

2010年度
優先順位の高い課題を
具体的に解決する
方法を試します

2011年度
実行・継続するための
仕組みと組織を
つくります（予定）

2012年度
さらに課題別に
様々な活動を
展開していきます



道志村
世代を超えて
安心して暮らせる
村づくりプロジェクト
未来通信隊
○○○○

村民の皆さんの村づくり活動を支援します

～NPOコレクティブハウジング社です！

昨年度から、道志村の委託を受け、「世代を超えて安心して暮らせる村づくりプロジェクト」の運営を支援させていただいています。我々は、一人一人を大切にしながら安心して暮らせる環境づくりをするには、そこに暮らす人が主体となり活動することこそが唯一の道だと考えています。コミュニティの信頼と力を基本に、誰もが安心して大好きな道志村を誇りに感じて暮らせるような村にするには何が必要かを共に考え、実践していきましょう。どうぞよろしくお願い致します。

発行責任者：池谷力三
この事業は平成22年度予算の「高齢者福祉事業調査費」により村民・役場・委託事業者の協働作業で行われております。
＜お問い合わせ＞
道志村役場住民健康課 52-2113まで

編集後記：このプロジェクトも2年目となりました。お年寄りの居場所や福祉のあり方を話し合ってきましたが、回を重ねる毎にテーマが広がり、「世代を超えて…」という村民一人一人が考え、取り組んでいただく流れにはなってきました。突然話題となった「新盆」。いろいろな課題が凝縮された取材活動でした。(Om,Mm,Ns)

「世代を超えて安心して暮らせるむらづくり」プロジェクト 第2期が始まります！

道志村未来通信 4



2010年8月31日発行

村民で話し合い 村民で実現する 村づくり

これまで

昨年度から、老若男女が安心して住み続けられる村の将来を村民自身で考えようと、話し合いを続けています。**そのきっかけは、道志村での高齢者福祉の問題でした。**

しかし、**村の高齢化の問題は、高齢者だけの問題ではなく**、暮らしを支えている世代から、村の将来を担う子どもや若者、すべての村民の生活の質につながっています。そこで昨年度、まずは様々な世代でどんな暮らしの課題があるかを話し合い、整理してきました。

現在、優先的に話し合い解決手段を試してみたいこととして、このようなテーマが出されています。

- 地区の慣習などの改善 ～葬儀、供養のやり方を考えたい
- お年寄りの生活支援 ～居場所づくり
- 移動手段のない子どもや高齢者の支援
～送迎や買い物代行
- 道志村のよさをPRし、村民を増やすには
～新住民や外から来た人の目で道志村の良さを語る

これから

そして今年度は、**暮らしの課題を一步一步村民自身でどう解決できるか考え、実行していきます。**道志村では、暖かい人間関係、お互いが助け合える関係があります。それは何よりの財産です。その助け合いの力を大切にしなが、必要な部分は仕事として支えていく仕組みも必要です。

是非、村民で共に考え、実行していきましょう！

次回の話し合いにご参加下さい！

日時：9月29日（水）

19:00～21:30

場所：やまゆりセンター

内容：今年度の具体的な活動の
計画を立てます。

お問い合わせ：道志村役場

住民健康課 電話52-2113 大田・宮下

産業振興課 電話52-2114 中島

**具体的な活動はこれからです！
話し合いはグループに分かれて
行いますので、いつでも参加できます。
是非、ご参加下さい！**

村に暮らす一人一人を大切にする村づくりは
皆さん一人一人の参加から始まります。

昨年のワークショップから折に触れ議論されてきた村の慣習に関する事で、葬儀や新盆、お彼岸などのやり方や義理がどんどん大変になっていくため、それを改善していきたいという意見がたくさんでいました。

そこで、去る8/14(土)、 地区の異なる2件の新盆を迎えるお宅を訪問し、新盆のやり方について取材をさせていただきました。 今回は、従来のやり方をされたHさん宅と、簡素化を試みたRさん宅にお話をうかがいました。

A地区 Hさん宅

[illegible]

Hさん宅では良いことやってたよと、早速
まわってきた人が言っていた。はじめに新しいことを
やるのは大変なことだが、実際にやった事例を知れば、
来年やってみる人

がでてくるのでは？
将来のことを考えると
簡素化していくことも
良いことだと思う。

子どもの世代は、村外から嫁いでくる嫁が多くなり、顔を知らない人もいる。

行事の時の料理も、回を重ねる度に豪華になっていくので、後の世代が大変になる。

道志村の夏 ～未来通信隊が、道志の新盆にお邪魔しました！



B地区 Rさん宅

Rさんのお宅は、今年初めて奥の間に祭壇を置き、縁側に焼香台を別途置くことで、新盆を迎える側も訪問する側も負担が軽くなるような試みをされました。

この地区では、女性達のお念仏が今でも行われており、貴重な体験をさせていただきました。お念仏が終わった後に食事をもてなされており、いろいろお話を聞かせていただきました。



□
簡素化といっても、ご先祖様にも親戚にも恥ずかしい思いをさせないようにと、ご焼香台のしつらえなどにも配慮をされたそうです。



【道志村の新盆】

道志村の新盆は、各地区で少しずつやり方が異なるそうですが、13～15日の3日間、親類の方や地類組合の方、地区の方などがご香料を持参し、供養に回られます。ご佛前にお参りが終わると、料理が振る舞われます。多いときには十数件のお宅を供養に回られるそうです。

尚、月夜野では決め事を文書化して残しており、参加者の方から資料をいただきました！

【急仏】

道志村では、地区の女性たちが御霊前や御佛前で心を入れて念仏を唱えるという習慣があるそうです。

念仏は、昔から後世に口伝で伝えられてきたそうですが、村で生まれ育った人ばかりでなくなった現在は、うたを書き記して伝えており、その内容はじっくり読むととてもさみしく心を打つものだそうです。

昔からの慣習を若い人に伝えるのは難しく、各家族や各地区でいろいろな課題がありそうです。



□ □ □ □ □ □ □

【新盆の現在～他の市町村ではどうしている？】

- ・お花屋さんによると、よその地域では縁側にそのまま大きな写真を出して焼香台を置いている。
- ・大月では中の仏壇は見えないところに置き、訪ねてきてくれる人に向けて用意するのは縁側の焼香台のみにしているそうだ。
- ・忍野では、14日ではなく13日に新盆の家をまわる。お焼香をして、その家の人からペットボトルの飲料をもらって帰る。「来てくれてありがとう」の気持ちとして。
- ・都留の一部では新盆の義理は一率1,000円。今後0にすることも検討しているそうだ。
- ・西桂では、広報に生活運動の実践として簡素化を呼び掛けている。(毎年8月に掲載)

今回、新盆をやる前に、簡素化することを親戚に相談をしたところ、やってみたらと後押しをしてくれたので実行した。

人によって考え方はさまざま。今回の簡素化の話をした際、若い人でも「そんなことをするわけにはいかない」と言う人もいた。その一方で、「やりにくいことをよくやってくれた」と言ってくれた人もいた。

縁側でご焼香してくださった方にも、「お時間があれば中に入って」ということを必ず声がけするようにした。来てくださった方の半数ほどが縁側でお焼香をし、帰るときに「これはいいね」という声をたくさん聞いた。

このようなことは、今まできっかけがなく言えなかった。
今後、やれることから実践して行けるようにしたい。

訪ねる側としても、いいと思う。
義理でもてなされた調理を食
べるのも大変。